

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 平成 25 年度

事業所番号	2790800110		
法人名	有限会社 なでしこ		
事業所名	グループホームなでしこの家		
所在地	大阪市東住吉区中野2-5-11		
自己評価作成日	平成 25年 10月 19日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&jiyosyoCd=2790800110-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 25年 11月 16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日の散歩を日課とし転倒の予防や不眠の解消、気分転換により不穏の解消に努めている。自身で出来る能力を生かせるよう個別対応を心がけ、自立支援に努めている。毎月、必ず1回以上、行事を行い入居者様に喜んでいただける努力をしている。毎月、誕生日の入居者様は特別に昼食に外食へ行きお祝いをしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「地域に密着し、みんなでいきいきと楽しく暮らしていきます」の理念を掲げ、地域に密着した事業運営を展開しているグループホームです。事業所内は、ゆったりと広くて明るく、開放感があり、居心地のよい家庭的な雰囲気となっています。地域の連合会会長や自治会長の熱心な支援を受け、地域との交流にも積極的に取り組んでいます。管理者や職員は、常に理念を基本として、「利用者を第一に考える」ことを大切にしています。利用者全員の毎日の散歩は、天候や季節を肌で感じ、健康な暮らしに繋がっています。また、職員のチームワークの良さは、ホーム全体の穏やかな雰囲気を作り、管理者が「事業所の自慢は職員です」という言葉から、今後より一層のサービスの向上が期待できるホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム独自の理念を毎日、朝礼時に職員間で唱和し共有している。	「地域に密着し、みんなでいきいきと楽しく暮らしていきます」を理念に掲げ、実践しています。理念は、毎日朝礼時に唱和し、確認しています。理念を基に、毎月の目標を立てています。管理者や職員は、「利用者を第一に考える」ことを大切にしています。	今後事業所の理念が、地域住民や家族にも理解・支持され、地域密着型サービス事業所として、さらなる発展に繋がることが期待されます。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会長様、連合会長様を通じ地域との繋がりを作っている。 地域行事の納涼盆踊り、敬老会、のど自慢大会に参加しホーム内での行事にボランティアで婦人部の盆踊りや歌手コンサートなどを実施している。	連合会長や自治会長の熱心な支援で、地域との交流が積極的にできています。地域での納涼祭や敬老会、カラオケ大会等に参加しています。また、カラオケ、歌体操、アロママッサージ等のボランティアは、利用者の豊かな暮らしを支える大きな力となっています。来年からは、実習生の受け入れも行う予定です。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	少しずつ理解を得る努力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、運営推進会議を開催し意見交換、状況報告を行い、地域自治会長様、地域包括、ご家族様からの助言など頂きながら関わりを深めている。	会議は、連合会会長、自治会会長、地域包括支援センター職員、家族、利用者が参加し、2ヶ月に1回、定期的に開催しています。会議では、事業所から運営状況や事故報告を行い、参加者から助言を得て、事業所の運営に活かしています。また、運営推進会議には、地域包括支援センター職員に参加してもらい、運営状況に理解を得ています。会議を通じて、地域行事へも積極的に参加するようになっていきます。議事録は、家族に送付しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて連携を図っている。 事故報告の提出や介護保険関係連絡会、ケアマネ連絡会等の参加を適宜行っている。	区の担当職員とは、事故や運営推進会議の報告をする等、情報交換を行い、交流を図っています。区の地域密着型事業所連絡会にも参加しています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関して、勉強会を開催し理解を深め身体拘束をしないケアの実践に努めている。	身体拘束をしないケアを目指していますが、安全面から玄関に施錠していましたが、外部評価受審を機会に見直し、日中は開錠することにしました。今年度は法人で虐待について学会を実施し、職員間で身体拘束や虐待について、改めて学習しあっています。不適切なケアについても職員間で話し合い、改善しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の取り組みへの勉強会の開催の参加をしたり、職員へアンケートを取り、ストレスについての把握をしたり、職員への意識の構築に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修等の利用する機会を設け理解を深めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時には丁寧に説明を行い、疑問等、集約確認する様に心掛けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に一度、ご家族様へ満足度チェックのアンケートを実施と意見箱や運営推進会議にて意見を集約し反映するようにしている。	家族の面会時には、その都度声かけ等して、意見や要望を聞いています。年に1回、法人より家族へのアンケート調査を実施し、サービス改善に活かしています。毎月の請求書送付の際は、利用者の暮らしぶりを伝える便りを同封しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>1ヶ月に1度、職員全体会議を開催し意見、提案等を集約している。</p>	<p>定例のヘルパー会議では、職員が意見を出し合い、サービス改善に取り組んでいます。職員の提案により、毎日の散歩が実現しました。『グッドアンドニュー』と名付けた、1日ひとつ良いことを見つけて発表する取り組みは、職員の士気を高めています。管理者は職員との話し合いを大切に、個別目標をもとに個人面談を実施しています。</p>	
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>年に2回、評価を行い、必要に応じ個人面談を設けるように努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>教育委員会を発足させ職員1人ひとりのケアの実際と能力の向上に努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH 連絡会などに積極的に参加し交流を深め意見交換等に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常に入居者様と話す機会を多く持ち、傾聴に努め意向を確認している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアプラン作成時等に十分な話し合いの時間をもち意向の確認をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	意向の確認は当然、その他、色々な相談にもものっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の自立支援を心がけ共に生活出来る支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度、手紙を送付し近況報告を行っている。 必要に応じてご家族様への連絡や行事の参加の呼びかけなどを行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間を作らず、いつでも来所して頂けるよう努めている。	学生時代からの友人と電話を掛け合ったり、手紙を出したりする利用者、元教師だった利用者には教え子が訪問する等、馴染みの人との関係が途切れないように支援しています。書道が得意な利用者は、手書きの年賀状を出しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	創作レクリエーション等を開催し利用者様が共同して作業して頂ける場を提供している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ケースは稀であり必要に応じて支援をしていきたいと考えております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時に限らず常に以降の把握に努めている。	入居の際には、アセスメントシートで、本人の生活習慣や趣味、好み等や家族の希望を把握するようにしています。田舎の畑が気になるという利用者には、庭が見える1階の居室を用意しました。失語症の利用者が入浴の際、歌を歌った感動を職員間で喜びあったケース等、日々の気づきや発見は、口頭で伝えていますが、記録はされていない状況です。	日々のケアの中での気づきや発見は記録に残し、職員間で共有して、更にもっと人らしい支援に活かせるよう検討することが期待されます。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様と話し合いの場を数多く持ちケアプラン等に活かし取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に状況、状態の把握に努め情報を職員間で共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	更新時はカンファレンスを行い、事前にご家族様の意見も聞き反映させている。	介護計画は、本人・家族の思いや希望を組み入れて作成し、6ヵ月毎に見直しを行っています。職員は、利用者毎に援助内容を書き込んだ「サービス実施表」で介護計画を確認しながら、サービスを確実に実施しています。モニタリングは毎月実施しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプラン表、介護記録など個別に記録し職員間で共有し介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問歯科、訪問リハビリ、ボランティア、外出、外泊、受診等、様々な応じている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のスーパーに買い物に行ったり、地域の行事の参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診、訪問看護以外にも必要に応じて、受診等の支援も行い、適切に医療が受けられるよう支援をしている。	ホームの協力医療機関より、定期的な内科や精神科等の往診、訪問看護や訪問歯科があります。また必要に応じて通院支援も行い、家族には結果内容を報告しています。また、利用者が安心して生活を送るため、夜間や緊急時に備え、医療連携体制を図っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の中で特変があれば24時間対応にて訪問看護の連絡を取り連携に努めている。 往診のない週は訪問看護に診て頂き医療連携に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院の地域連携の相談員との連携をし早期退院が出来るように情報の好感を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの実績はないが、ご家族の意向や希望に応じ主治医、施設、家族とムネテラを行い結果を職員も把握している。	重度化や終末期に向けた支援についてのマニュアルを整備しています。入居時に利用者や家族に対し、重度化した場合における対応の指針を説明して、意向確認を行い、理解を得ています。	今後は、重度化や終末期に向けた支援について、職員の不安材料を解消するために、現在整備されているマニュアルの見直しを検討されてはいかがでしょうか。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	「普通救急救命」を全職員に取得を促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に行っている。 地域の防災訓練にも参加し地域交流に努めている。	防災マニュアルを整備しています。今年4月に夜間を想定した自主避難訓練を行い、来月は消防署との避難訓練を予定しています。事業所からも地域の災害訓練に参加し、地域との協力体制を築いています。現在、災害時の非常用食料や飲料水等の備蓄はまだ準備できていない状況です。	今後は、災害時における非常用食料や飲料水等、事業所の状況に応じて必要なものを準備することが望まれます。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重して言葉掛けに努めている。	全体会議で今月の目標を「敬意のある言葉使い」と定めています。職員は、目標を念頭におき、利用者一人ひとりに対し、丁寧に接するよう心がけています。また、接遇に関する研修も開催しています。全体会議において、利用者への言葉使いや対応について、職員は都度振り返ることや気づきが大切であると意見があがり、職員間で共通認識を図っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	穏やかに生活して頂けるように心がけ、入居者様が話し易い環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様本位に考えており出来るだけ希望に添えるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月、訪問理美容の実施をしており希望の入居者様への支援をしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も昼食時、一緒に食事を摂っている。また盛り付け、お茶入れ、お盆拭き等、一緒に行っている。	業者から取り寄せた食材を職員が調理しています。調理に関する衛生マニュアルを台所内に整備し、職員は毎日衛生管理チェックリストをつけ、食事における衛生面の清潔を心がけています。また、利用者の希望に応じて、手作りおやつや握り寿司を提供する等、利用者にとって食事が楽しみなものになるよう、支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量の摂取を個別に毎日チェックし摂れていない時にはDrに相談しながら支援に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行いながら、定期的に訪問歯科の診察や口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄リズムの維持の支援、自立に向けた支援を行っている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握しています。利用者のサインを職員全員が把握し、さりげない声かけでトイレ誘導を行っています。排泄の記録は、生活記録書に記録されています。失禁等の場合は、すぐにオムツを使用するのではなく、観察しながら声かけを行い、自立支援を意識した対応が行われています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩や適度な運動の実施、便通の良い食べ物、飲み物を提供したり工夫をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日の設定は行っているが、体調や希望により柔軟に対応を行っている。	利用者の意向や希望を尊重し、入りたい時に入浴をしています。安心し、安全に入浴ができるよう、浴室は整理・整頓しています。ゆず湯やしょうぶ湯等、季節に合わせた支援を行い、利用者は入浴を楽しんでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別に対応しており、個々に応じた支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報ファイルにて職員が把握、出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	適宜、行事を行い楽しんで頂けるよう工夫している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に添えるように援助しており散歩や買い物に行っている。 またご家族様と旅行、食事等もされておられる。	毎日利用者全員で散歩に出かけ、利用者の楽しみの一つになっています。 近隣への散歩は、地域の方との交流にもなり、顔なじみの関係ができています。春には、花見も行われています。行事委員会があり、職員は利用者の楽しみに向けた工夫をしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持に関しては基本行っていないが希望があれば買い物に同行して立替している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族様より入居者様あてにかかってくる電話を取り次いだりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感の演出や温度の設定等の工夫をしている。 こまめにトイレの掃除を行い清潔保持に努めている。	玄関には、季節の花が飾られ色とりどりの掲示物があります。各フロアの食堂は窓が広くて明るく、ゆったりした造りになっています。陽射しが心地よく、窓からは緑の樹木が眺められ、和めるようになっています。食堂には、温度計・湿度計があり、心地よい環境で過ごせるようになっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの配置やイスの配置等、居心地の良い工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンス、テレビ冷蔵庫等を時さされている。	居室は、清掃が行き届き、安心して過ごせるようになっています。利用者は、使い慣れた家具等、馴染みのものを持参し、本人が居心地良く過ごせるような工夫をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々に応じてプランを作成し自立支援に努め、役割を持って頂けるように支援をしている。		